

撰 津 市

地域で守ろう子どもの安全

～学校園受付活動のこれまでとこれから～

はじめに

撰津市では、子ども達の学校園生活の安全を確保するとともに、安全な地域づくりを進めるため、平成16年度より市立小学校に「受付員」を配置し、平成18年度からは市立幼稚園にも拡充しながら、活動が広がってきています。

本年8月に、この取組の検証と今後の展開の資料とするため、すべての受付員（対象者56名）に対し、



受付員意向意識調査報告書

50項目からなる「受付員意向意識調査」を行いました。その結果を踏まえながら、この事業について説明します。

で撰津市では、学校受付員制度を創設し、市立小学校において人の出入りを正門に限定するとともに、「受付員」を配置しました。当初は（社）撰津市シルバー人材センターへの委託で開始したこの取組も、平成17年度からは広報紙等で公募した地域住民の方を中心とする活動に発展し、現在で4年目となりました。



受付室

背景と経過

小学校に不審者が侵入し、児童や教職員に危害が加えられる事件が近隣市においても発生し、学校の防犯対策が喫緊の課題となりました。そのような中



受付員制服

安全性の確保についての考え方

1. 学校の安全

警備員や防犯カメラなどの防犯機器で学校という「点」を防御しても、学校の外も安全でなければ意味がありません。そのためには地域ぐるみで子ども達の安全を考えることを通じて、子ども達や学校、教育について関心を持ち、支援してくれる人を増やす事が重要です。そのような観点から“地域の人”が学校の校門に立っている事に、高い防犯効果があると考えています。

2. 従事者の安全

万が一の事態に備えて、受付室、職員室、体育館、児童保育室をつなぐ緊急通報装置と内線電話を備え

ています。受付員は侵入者に立ち向かうのではなく、緊急事態を校内にいち早く知らせ、自らの身の安全も確保します。



非常通報装置

### 3. 信頼性の確保

子ども達の安心・安全のためには、この取組への信頼性が無ければなりません。そのために、従事する曜日・時間を割り振り、いつ・だれが・どこで活動するのかの責任を明確にしています。

また、突然の従事もれ等が発生しないように、従事者の体調などの状況把握も含め、事務局と従事者の連絡を密にとっています。

## 「受付員意向意識調査」による検証

### 1. 事業の効果

#### [子どもたちへの効果]

学校を訪れると、校門での受付員と子どもたちとの元気なあいさつ、休み時間や下校時には子どもたちが受付室の周りに集まり、受付員と楽しそうにお喋りをしたり、時には遊び相手になったりといった光景を目にします。このような子どもたちと地域の大人との世代間交流が日常的に見られます。

#### [学校への効果]

- ・校門の安全管理に対する教職員の負担軽減
  - ・遅れて登校してきた子どもの受け入れが安心
  - ・休憩時間中の学校外への飛び出しや交通事故の防止
- などが学校の声としてあがっています。



下校時の見まもり

#### [従事者や地域への波及効果]

- ・今回の調査で回答者の90%の方が、子どもたちや地域への関心が高まったと答えており、子どもや安心な地域に対する地域住民の関心を喚起できました。(表1)
- ・口コミで活動が広がっており、全体の23%が実際に活動している方の紹介で参加しています。また、回答者の68%がこの活動の認知が市民に広がったと感じており、市民周知も進んできていると考えています。(表2)

### 2. なぜ続いてきたのか

地域の中に「顔見知り」をつくることで、子どもたちが安心して暮らせる地域づくりをすることを目的としているこの取り組みは、「継続すること」が重要です。そのため、従事者の責任の重さを考慮し「有償ボランティア」とするなど、継続的に従事していただける環境作りをしてきました。

現在、活動開始時から継続して関わっている方(3年以上)が60%もあり、短期での出入りはほとんどありません。同じ人が定着して活動をしているのが特徴です。「地域に顔見知りを作る」という目的のためには従事者の定着が重要であり、その理由は次のとおりと考えます。

#### ①「関わりやすさ」

従事者の多くが、活動自体の責任の重さは実感しながらも、難しい技能など求めず、仕事内容を平易なものにしているため、従事内容に関わりやすさを感じており、回答者の86%がボランティア活動への入り口として高く評価しています(表3)。

## ②「無理をしない」

従事時間や回数などが個々人の体力や余暇時間に柔軟に対応できており、無理のない範囲で個人の意欲に応じた活動となっています。

## ③「地域にも良く、自分にも良く」

回答者の94%が、この活動が学校の安全確保に有効であると評価し(表4)、76%が学校外であいさつをする人が増えたとしています(表5)。また、75%が活動に「やりがい」を感じ(表6)、73%が活動を始めて良かったと答えており(表7)、多くの方が満足感を感じています。

そして、卒業生が会いに来てくれたり、卒業式で感謝の手紙や鉢植えを贈られたりするなど、子ども達とのふれあいや感謝の気持ちが、何よりも受付員のやりがいにつながっています。

## 3. 地域の中の学校に

学校の運営や教育について、地域ぐるみで考えていこうという機運が高まっています。

限られた人だけではなく、より多くの市民が子どもたちや教育への関心を持ち、教職員と問題意識を共有しながら行動する、その事が真の意味での開かれた学校、地域の中の学校を創り上げていくのではないかと考えます。受付員制度は、より多くの市民が学校や教育、子ども達に関心を持ち、関わっていくための「入り口」のひとつとして機能していると考えています。

## 今後の発展に向けて

### [参加から参画、そして連携へ]

受付活動を、行政活動への市民の参画という観点から考察すると、今回の調査で明確になった課題の一つとして「従事者」から「主体者」への転換があげられます。

個人で参加されている受付員は、基本的に教育委員会の依頼に沿って活動をしています。

しかし、市民参画の観点で言うならば、自ら問題意識を解決していく主体へと転換していく事が必要ではないかと考えます。そのために学校単位での活

動のグループ化を支援し、事業を委託する取組をしています。それは単に参加しているだけに留まらず、活動を通じて感じる課題や問題に対し、自らが中心となり目的を共有する仲間とともに解決をしていく、その道筋をつけることです。そして、次のステップとして地域の他の安全安心に関する取組とも連携をとり、多くの主体を巻き込みながらネットワーク化させていく、その核となるものです。その事でこの事業が地域の中でより多くの人の参画を可能にし、活動が広がっていくことにつながると考えています。地域の安全の観点から学校の安全を考える、この取組の目指すところです。

これまで3つのグループが、この活動に参画していただいておりますが、昨年10月からは新たに1つのグループが受付活動の中から立ち上がりました。今後もそれぞれの学校や従事者のペースを見ながら支援を続けていきます。

## まとめ

この取組は学校の安全確保を目的に始まった事業です。しかし、今回の調査で、受付活動に従事している方々は、定年退職等を迎えて以降の余暇の過ごし方の一つとして、ボランティアなどを通じて社会や地域との接点を持っていたいと考えており、この活動がその「入り口」となっています。そしてこの活動に関わり、社会や地域に居場所や役割がある事が、生活の充実や健康の維持、生きがいにつながっている事も分りました。少子高齢化などが課題となっていますが、年齢を問わず、地域の人々が「自分



研修会の様子

に出来ること」を実現することが地域活性化の源泉であると考えます。

これからの市民参画について行政の役割は、市民の活動の舞台となる「場」を設定し、事業を「開放」し、支援者として「協働」することで、市民の意欲を社会の課題やニーズとつなげていく。そのようなあり方が見えてくるのではないのでしょうか。

多様な人々が参画し交流することで、ネットワークが生まれる。そのような新しいコミュニティが地域の中にたくさん生まれ、感じる課題や問題を

**【受付員制度概要】**

(通称) 「せつつスクールサポーター」  
 (従事者構成) 個人 45名  
 (社) 摂津市シルバー人材センター  
 ボランティアグループ 4 団体  
 (平成20年11月現在)  
 (年齢別構成) 80歳以上 (4名)  
 70歳代 (27名)  
 60歳代 (25名)  
 50歳代 (5名)  
 40歳代 (1名) 個人団体計62名  
 (従事時間等) 児童の登校がある日 午前8時から  
 午後5時 2交代制  
 (謝礼) 1回 [半日] 1,500円  
 (予算) 12,866千円 (平成20年度、3園10校)

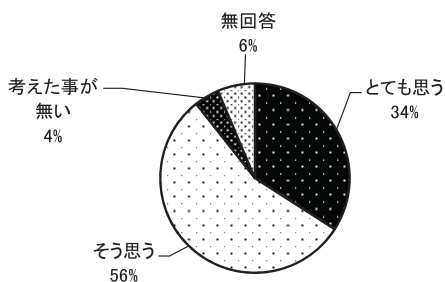


表1 受付活動を始めてから地域や子どもへの見方や意識が変わったか

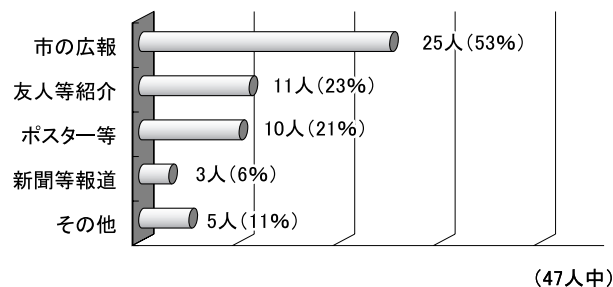


表2 受付活動を何で知ったか

様々な考え方を取り込みながら主体的に解決していく。その事で、学校の安全対策と高齢者の生きがいにつながるなど、事業の深化が図れ、重層的な波及効果が実現できればと考えています。

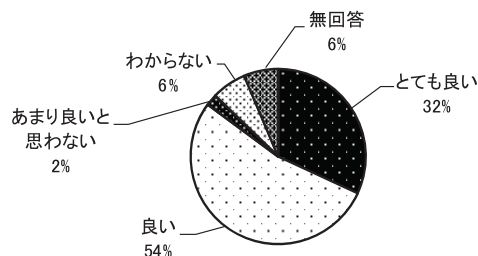


表3 受付活動が地域活動に関わるきっかけとして良いと思うか

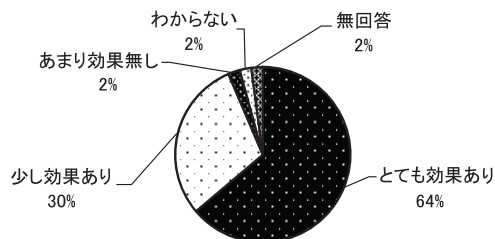


表4 受付活動が安心安全の取組としての効果について

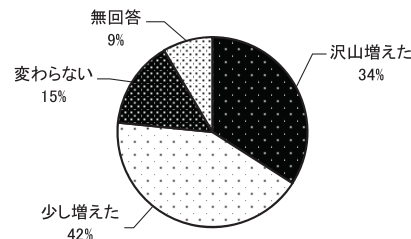


表5 受付活動を始めて知り合い(学校外であいさつをする人)が増えたか

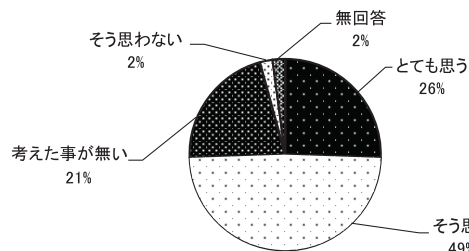


表6 受付活動が「いきがい」や「やりがい」につながっているか

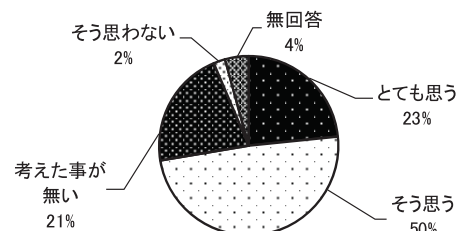


表7 受付活動を始めて良かったと思うか